

広報委員会 発行日 平成21年9月30日

(社) 神奈川建築士会 横浜支部事務局 担当: 大平  
〒231-0011 横浜市中区太田町 2-22 神奈川県建設会館

TEL 045-201-1284

FAX 045-201-0784

### 『美術館建築シリーズ～建築家 坂倉準三を知る』開催報告 横浜支部総務委員会

すっかり定着しました横浜支部の「美術館建築シリーズ」の第4弾は、平成21年9月5日(土)に「建築家 坂倉準三を知る」をテーマとして「神奈川県立近代美術館 鎌倉館」の見学会を開催しました。

9月になったとはいえ、灼熱の日差しの中、鎌倉駅に集合した会員19名は、室伏次郎氏(studio ARTEC 代表)の講演を聞くために、東京ガスライフバル湘南鎌倉様のご厚意により用意された会議室に向かいました。



【平家池からのぞんだ鎌倉館】

美術館建築シリーズ第4弾	1
建築家 坂倉準三を知る	2
神奈川県立近代美術館 鎌倉館	3
○総務委員会	4
夏の懇親会に参加して	5
○厚生委員会	
川越市立美術館見学と 喜多院でのスケッチ	6
○絵画同好会	
お風呂	7
○技術・情報委員 田川尚吾	
日帰りバスツアー	7
○厚生委員会	
第53回神奈川県コンクール 住宅部門	8
最優秀賞・奨励賞3作品受賞	9
民家めぐり そのII	1
長屋門公園	0
瀬谷区阿久和	1
○広報委員会	1
○おしらせ	1
テニス同好会会員募集!!	2

## 《室伏氏、坂倉準三を語る》

室伏氏は、1963年から1970年まで、坂倉準三建築研究所に勤められ、その後、studio ARTEC を設立し、神奈川大学教授などを歴任し、日本建築学会賞(大井町の家)、神奈川県建築コンクール優秀賞(山手町の家)などを受賞するなどご活躍されています。坂倉準三氏の人物像や鎌倉館の建設時のエピソードを室伏氏に語っていただきました。

### ～坂倉準三氏の素顔

坂倉氏は、厳格でチャーミング、正義感と情熱の人で、若い室伏氏をはじめ、すべての所員と対等な立場で接する魅力ある人だったそうです。「人間のために」という言葉を臆せずよく使い、室伏氏が計画論を論理的に主張したところ、実際、使う人がどう思うかを考えて欲しいと諭されたといえます。坂倉氏には、産業革命以降、自由と平等のために建築がある、その背景には、「人間のために」という思想があったそうです。

### ～鎌倉館建設時のエピソード

鎌倉館は、戦後間もない貧しい時代に竣工(1951年)したものです。当時の内山神奈川県知事が疲弊した時代に、文化に目を向けることで人々を鼓舞させようと美術館建設を決断しました。

鎌倉館は、鉄骨造2階建て、延床面積1575㎡で、今日の美術館建築から見ればささやかなものです。しかし、当時は、日本で最初の公立美術館で建築界における大きな出来事でした。コンペ指名も前川國男、吉村順三など当時気鋭の建築家たちで、最終的に1937年のパリ万博日本館建設の経験がある坂倉案が当選したそうです。



【室伏次郎氏の講演会風景】



【室伏氏、坂倉準三の素顔を語る】



坂倉氏は、様々な作品を残されていますが、スケッチやコンセプトを自ら示すことはなく、そのことが、所員を切磋琢磨させてきました。しかし、鎌倉館の中庭のプランをいつどのように誰が提案したのか、当時の所員に聞いてもわからなかったそうです。最近の展覧会で展示された日記の中で坂倉氏自身が現地を見て、終日集中してプランを考え、自ら発案していたことがわかりました。最初から案を決して示さなかった坂倉氏ですが、その例外として鎌倉館があり、同氏の思いの入れ方が、伝説のエピソードとして語られているそうです。

坂倉氏は、日本の伝統的建築をアッセンブルして体現するのではなく、ロケーションのなかで、あり様がよかったかを恐る恐る世に問うことがクリエイティブなことだと語っていたそうです。

### ～鎌倉館の状況

鎌倉館は、モタニズムの普遍的な合理性と日本の伝統的な空間の特性との絶妙な調和がなされていると評価されています。しかし、度々の改修において、この建築が美しいと敬う気持ちが喪失されているのではないかと危惧しているそうです。例えば、美術館のスタッフの善意のことですが、正面の支柱にのぼりやライトアップのための照明が付けられ、美観を損ねられてしまいました。また、中庭は当初砂利敷きで、歩くとその音が空間の中で心に響くものでしたが、タイル敷きにされてしまいました。

鎌倉館には、不作為の美学や、簡潔の美学といわれるものがありました。改修した結果、美しくない状況になってしまい残念だそうです。



【平家池に向かって開かれたテラス】



【改修でパラペットを増した、全体のバランス？】



【中庭、彫刻はノグチイサム氏作】

鎌倉館の敷地は、鎌倉八幡宮からの借地であり、平成 28 年にその契約期限が来ます。契約では更地にして土地を返還することになっており、鎌倉八幡宮もその意向と聞いています。鎌倉館をどうするのか、近々に存続にかかわる大きな岐路に立つことになり、その動向が大変気になるところです。

### 《学芸委員に聞く》

約 1 時間の室伏氏の講演をお聞きした後、鎌倉館に向かい「建築家 坂倉準三展」を見学しました。同展は、坂倉氏の生涯を図面・写真・模型・資料など約 200 点で振り返り、今日的な意義を検証するものです。

中村総務委員長に鋭意交渉していただいたお陰で、最終日の前日という大変忙しい中で、学芸員の三本松倫子氏に同展の説明を詳しくお聞きすることができました。学芸員の三本松氏は、坂倉氏を研究しており、室伏氏も見学会に同行されたので幾分緊張して説明されていたようでした。

三本松氏から、パリ万国博覧会日本館の模型や設計図書、渋谷駅や新宿西口広場の模型、関係資料などの解説をいただき、また、坂倉氏が戦後復興と高度成長の中で日本の伝統を新しい視点から作り直すことに情熱を傾けたことなどを詳しく説明していただきました。また、1931 年から 1939 年までル・コルビジェの事務所に押しかけた経緯や無報酬で勤めたことなどのエピソードを聞くことができました。

### 《美術館談義》

約 4 時間を要したプログラムが終了した後、中村総務委員長に鎌倉駅近くに予約していただいたイタリア家庭料理エントラータで懇談しました。懇談には講師の室伏氏もご参加いただき、坂倉氏の話のほかに多くの建築談義で盛り上がりました。



【正面の柱に照明が付けられてしまった】



【三本松学芸員による解説】



【鎌倉館のスケルトン模型】



【懇談会風景】

## 夏の懇親会に参加しての感想

9月4日、夏の懇親会が横浜赤レンガ倉庫 BEER NEXTで行われました。

初めて参加しました。

60人ほどのメンバーが集まり、飲み放題のざっくばらんな印象の会で、2時間はあっという間。

実のところこれまで、「建築士会」という団体の具体的なイメージもつかみきれずにいました。

建築士会に入会して数年、今までは、定期的に送られてくる冊子「建築士」に目を通し、たまに建築士会主催の講習会などにただ参加するくらいだったので、自分の気持ちは建築士会までかなり距離がありました。

懇談会は、その距離を一気に縮めてくれました。

参加してみて、初めて、建築士会は、「個人」の集まりであること、そのため構成メンバーも、設計関係、施工関係、官公庁、メーカー等と多岐にわたっているということを、教えてもいただき、身を持って納得もしました。

また、横浜支部が、神奈川県建築士会の中で最も新しい支部だということ、設立時の立役者が皆様健在で、支部の底支えとなっているということもわかりました。

建築士会横浜支部に入ってよかった、と思った夜でした。

小田川 友子



筆者 小田川さん



## 川越市立美術館見学と喜多院でのスケッチ

「 絵画同好会・スケッチ会 」 6月6日 菊地 紀代子

川越に今回は スケッチに行きました。最初に 川越市立美術館の見学です。設計は坂倉準三設計事務所です。外観は お隣の川越市立博物館と一体となるような雰囲気、シンプルな印象を受けました。川越市在住の美術家の作品が展示されており、興味深いものがあります。

お隣の博物館は 川越の伝統文化の展示が主で、私的には 見学の時間が足りず消化不良な感じがしています。後日、もう一度訪ねてもいいかも と思っています。

お蕎麦屋さんで 昼食をとり、街なみを見ながら喜多院（家光公誕生の間、春日局化粧の間が移築）まで歩き、そこで皆それぞれの場所で スケッチをしました。川越市は今、NHK朝の連ドラの舞台で観光客が多く、のんびり街並み見学とはいきませんが 魅力的な町でした。



川越市立美術館前にて



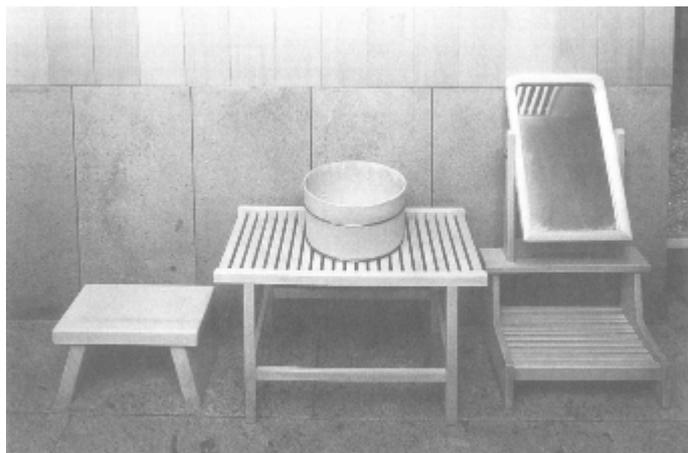
隣の博物館



川越市立美術館前にて



川越の街並



何かの企画で、講師をお願いするときは、手紙を書くようにしています。それは、お会いしたことのない先生に、突然電話をするのは失礼だし、メールやFAXだと依頼の気持ちが軽く思われそうな気がするからです。大抵は手紙を出して3日後くらいに、直接電話をかけます。

三養荘ツアーでは、当初、西塚先生が遠慮されたために、もっと大物(?)の先生に依頼したことがありました。

最初の電話は奥様が出られ、「はい、主人はおりますが、さてどこにいるのかしら」というご返事。「家にはいるはずですが、どこにいるのか分からなくて……」ということなので、「またこちらからお電話いたします。」と電話を切りました。

2回目に電話をしたときも、やはり同様のご返事。「相当広い邸宅なんだろうな〜。」と想像しながら、待つこと20秒。すると、「ちょっと探しますのでお待ちください。」と、どうやらコードレスフォンを片手に、家の中を探し始めてくださるようでした。

「どこにいったのかしら……」「おかしいわね〜」と、まるで猫でも探すような口調が続き、さらに待つこと20秒。

「やだ、こんなところにいたの?」という驚きの声。続いて「だって、もう夕方だろう。」と、なんとなくエコーのかかった声が……。「でも、まだ四時半よ。」

「建築士会の〜さんから……」という奥様の取次ぎに、「あー、ちょっと待って。」

「あとで、こちらからかけるって言いますか?」「いや、いいから、ちょっと待って。」

「いやだ。こんなところから電話するの?」という奥様に、「いいから、いいから、……」

「大丈夫?ビビッと来ない?」という心配に、「何で?」「大丈夫だよ。」というお答え。

「ねえ、落とさないでね。」という言葉のあと、やっと念願の先生とお話することができました。

「……です。お手紙もらいました。えっと、西塚君という人が僕よりずっと詳しいから、そっちに頼んでくれるかな。あのね、なんて言うのかな。僕はそういう世界から、もう足を洗ったからさ。」

「あなた。体洗ってたんじゃない。」

(???)

私は一気に、この豪快な先生とユーモアたっぷりの奥様のファンになりました。いつか、どこかでお会いしたいな。と実は思っています。

三養荘では、お風呂セットまでが繊細にデザインされていて、特に、桶の薄さには目を見張るものがありました。「繊細なデザインは豪傑に宿る?」。お風呂を見て、私がビビッと感じたことでした。

(技術・情報委員 田川尚吾)

横浜支部会員菊嶋氏が平成 20 年度第 53 回神奈川建築コンクールに於いて多数受賞されたので以下に菊嶋氏の言葉を添えて紹介致します。

## 平成20年度第53回神奈川建築コンクール -住宅部門-

### 最優秀賞 『緑山の家』

横浜市青葉区

敷地面積：244.06 m<sup>2</sup>  
建築面積：78.60 m<sup>2</sup>  
延床面積：127.40 m<sup>2</sup>  
構造：鉄骨+一部 RC 造  
地上 2 階建  
竣工：平成 19 年 5 月  
設計監理：  
栗原隆建築設計事務所  
施工：株式会社キクシマ



2枚の壁だけで支えられた一枚の大屋根。2階のリビング・ダイニングは遠景の緑を望む全面開口となっている。通常は家の中にとりこまれている玄関や階段をあえて外に出し、外部も内部同様に生活の要素としてとらえることで、結果として非常に豊かな空間が作り出された。

### 奨励賞 『山手の家』

横浜市中区

敷地面積：1565.44 m<sup>2</sup>  
建築面積：249.29 m<sup>2</sup>  
延床面積：411.40 m<sup>2</sup>  
構造：RC+木造  
地上 2 階建  
竣工：平成 19 年 6 月  
設計監理：  
八木建築研究所  
施工：株式会社キクシマ



高低差のある変形敷地に建つ、親世帯+2つの子世帯からなる3世帯住宅。敷地形状に合わせて屈折させた建物で全ての居室から庭への眺望を確保し、3世帯を覆う天井は垂木構造露わしとして統一されている。

## 奨励賞 『黒の宝石』

横浜市磯子区

敷地面積：227.22 m<sup>2</sup>

建築面積：67.10 m<sup>2</sup>

延床面積：127.30 m<sup>2</sup>

構造：木造地上2階建

竣工：平成20年4月

設計監理：

デザイン研究室 STUDIO A

施工：株式会社キクシマ



磯子の丘の上に建つ黒い五角形の住宅。その建物外周と家の頂点部分にあるトップライトの形状の両方が敷地と相似形。1・2階ともにトップライトを中心にドーナツ状に回遊できる。外壁はカナダ杉。

当社は、昭和39年建築金物の製作取付業者としてスタートして、その後、大臣認定工場として中高層建築物の鉄骨製作や学校耐震のフレーム製作に注力しています。一方で昭和60年代よりは、建築の元請業務をスタートさせ、特に近年は今回ご紹介させていただいたようなこだわりのある住宅を数多く施工させていただいています。

昨年、念願でありました神奈川建築コンクールに3作品入選することができました。

これからも社員一同、この賞を励みに真面目にいい仕事をしていく事にこだわり続けていきたいと思っています。

横浜支部福利厚生委員長 菊嶋 秀生

†公園の中の歴史的建築物

瀬谷区阿久和にある長屋門公園は、相鉄線三ツ境駅から徒歩約15分、起伏豊かな地形を持ち、面積にして3.5ヘクタールという規模の比較的大きな公園です。公園の過半を占める樹木林は自然観察林として整備され、今でも40種類以上の野鳥が飛来し、訪れる人達の眼や耳を楽しませてくれるそうです。野鳥の巣箱造りをはじめとする、生態系を意識した行事が行われているのも長屋門公園ならではの特徴です。低地にはかつての阿久和の風景を再現したといわれる湧水の池やほとりがあり、オタマジャクシ等の水生生物も実際に生息しているとのこと。この湧水の下流の一画に、長屋門・茅葺主屋・蔵等の古建築物群があります。公園の名称は長屋門の建物名が由来です。



長屋門公園：散策路入口



長屋門公園：配置図

†公園の地形や樹木を生かしたアプローチ

住宅街の路面が石畳に変わってしばらくして、木々に覆われた散策路の入口に辿り着きます。散策路の緩い坂を下ってゆくと、木々の隙間から鈍く反射する長屋門の重層屋根が見え隠れしてきます。屋根をちらりと見せつつ、坂を下りながら全体像を徐々に見せてゆく様子は、建物への期待や高揚感を煽ります。地形や樹木林のという文脈の中に移動経路を織り込み、人を心地よく建物へ導いてゆくアプローチの好例です。



長屋門：散策路の途中で姿を見せる屋根



長屋門：表門全景

†長屋門（旧大岡家の表門）

長屋門というと、武家屋敷や塀と建物が融合した横長のイメージを連想させますが、この表門は少し様子が違います。建物は、白壁の蔵と黒い下見板張の木造家屋が対照的に並置されています。この表門に武家屋敷に多い漆喰壁等の権威象徴がみられないのは、明治20年代に商用として建てられたことに依ります。表門で特徴的なのは、明治に盛んだった輸出用生糸を造る為の製糸工場を上階に持ち、ここを潜って門とする所にあります。門廻りは、軒庇をつくる3本の跳出梁、これら梁を受ける尺上の大梁、この尺上梁を支持する両脇の8寸柱により、懐の深い門が力強く構成されています。構造材の重量感が門を表象しながら、同時に何とも言えない緊張感を生み出しています。

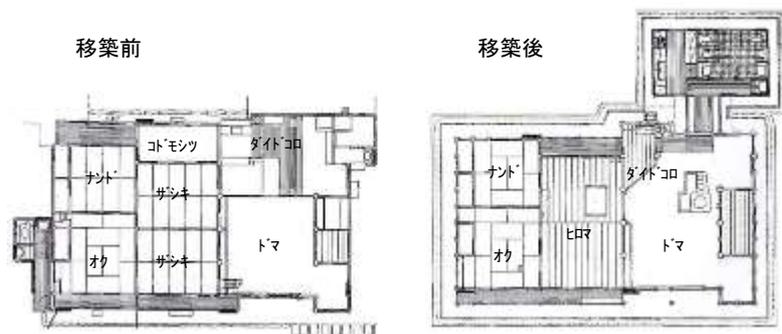


長屋門：入口（門廻りの架構）

表門を見上げると、上階の地窓を通して製糸工場の内部が覗えます。透けて見える上方の採光換気窓が、先に観た重層屋根の段差根拠であったことがここで判明します。製糸工場は内覧が可能で、小屋組の架構、通風の上でも合理的な窓配置の他、当時の工場の様子、工具類を見学することができます。

#### † 茅葺民家（旧安西家主屋）

表門を潜ると、正面に茅葺の主屋が立ちはだかります。以前は、大岡家の主屋等があったそうですが、現在は、和泉区にあった江戸時代の農耕民家である旧安西家が移築されています。移築前は、中央の座敷が畳敷の接客間であったのに対し、移築後の現在では、囲炉裏や押板といった伝統要素を復活させて板張ヒロマとし、南北方向を貫く大部屋として開放されています。



座敷から大ヒロマへの改造には、典型的な伝統形式の再現を織り交ぜながら、公園内の一建物としてどう活用してゆくかという思惑を感じます。また、建物の配置から見ても、この開放ヒロマがあることで、視線が長屋門表門からヒロマを貫き、奥の樹木林へ抜けるという構成は見事というほかはありません。

#### † 公園守りの主役

長屋門公園は現在、地域のボランティアの方々が主に管理運営されているようで、年中行事としても七夕祭・月見・雛祭り等の全国共通のものから、民家一泊体験や蕎麦打ち教室・わら草履編みといった体験・創作ものまで多数催されています。

こうした行事を通し、自然や生態系、先人の知恵を享受していくことが、公園を守り育むことへ繋がっているように感じます。近年、長期優良住宅や増築の際の緩和措置等、建築のストック化に向けた動きが活発ですが、こうした古民家を観ていると、ストックの動機や価値付こそ違うものの、その原点に立ち還らせてくれる瞬間があるように思います。古民家からはまだまだ学ぶことができそうです。

広報委員 桶師徳行

\*所在地:横浜市瀬谷区阿久和東 最寄駅:相鉄線三ツ境駅下車徒歩 15~20分



長屋門: 2階の製糸工場と頂部の採光窓



茅葺民家: 南側全景と前庭



茅葺民家: 縁側腰に奥の樹木林が透ける



茅葺民家: 南北に開放された大ヒロマ



茅葺民家: ヒロマより土間方向を見る



茅葺民家: 北側の裏庭と舞台装置

## 編集後記

今回は年度初めの総会及び建築探偵でおなじみの藤森照信さんの講演をはじめ、各同好会の活動、各委員会の事業活動も多くあり非常に内容の濃いものとなりました。

平成21年度も3ヵ月を経っていますが残りの期間においても更なる活動を実行して頂き、会員間の交流及び増員につながればよいと感じております。

## ～お知らせ～

### 厚生委員会からのお知らせ～

#### 夏の親睦会

日時：平成21年9月4日(金) 18:30～20:30(雨天決行)

集合 18:20(時間厳守)

場所：横浜赤レンガ倉庫 BEER NEXT

横浜市中区新港1-1-2 横浜赤レンガ倉庫 2号館 3階

(TEL:045-226-1961)

会費：支部会員&建築士会会員 3,000円

賛助会会員&非会員 5,000円

### 同好会会員募集中!

テニスに関心のある方どなたでも参加可能です。特に女性大歓迎!お気軽に連絡下さい。  
ご連絡の際はメールの場合でもお名前、連絡先の記入をお願いします。詳しくはホームページをご覧ください  
連絡先：玉野 045-894-8452 FAX893-6614

### ■ 広報委員会からのお知らせ～ 横浜支部 ブログへの投稿をお待ちしております!!!

新しくしました横浜支部のホームページのブログへ書き込む時のIDとパスワード(PW)です。

ID: yokohama-sibu PW: blog4us

### ● 横浜支部賛助会の皆様へ

頁の最下段に会社のロゴなどの広告掲載(バナー形式)を無料にて実施いたしました。 広報委員会

#### □ バナー作成について

- ① バナーは、縦35mm。横105mm。解像度を300pixelでお願いします。  
企業スローガンや、住所や電話番号を記載されても構いません。  
原稿はカラー(支部のホームページに記録)。実際に会員配布されるものは、白黒です。
- ② 広報委員会(大貫)まで、メールにて送信。メールアドレス [ohnuki@dream.big.or.jp](mailto:ohnuki@dream.big.or.jp)
- ③ ご不明な点は、広報委員会(大貫)までお問い合わせください。

#### 広告バナー(見本)

(社) 横浜川島建築士会 横浜支部

編集者(あいうえお順)

雨森隆子・大西正行・大北晋一郎・大貫 浩・桶師徳行・小俣 隆・田川尚吾・玉野直美・橋本朝子・丸山幸一